

「加茂川総合内水対策計画（案）」意見募集結果

1 目的

平成22年7月および平成23年9月に草笛町3, 4丁目、深田町3丁目で床上、床下浸水被害が発生したことにより、加茂川流域の浸水被害を軽減するために、排水機場を管理する国と加茂川を管理する県と流域自治体である坂祝町と美濃加茂市の4者で排水機場（ポンプの増設）や河川改修などのハード対策と雨水流出抑制策や土地利用規制、警戒避難体制の強化などのソフト対策を一体的に推進する加茂川総合内水対策計画を策定することになりました。この案について、広く市民の方から意見を求め、参考とするためパブリックコメントを実施しました。

2 実施期間

平成24年11月20日（火）～12月19日（火）

3 周知方法

- (1) 広報みのかも11月1日号にパブリックコメントの実施について掲載
- (2) 市役所西館3階 産業建設部都市計画課で計画（案）の閲覧実施
- (3) 市ホームページに計画（案）を掲載

4 意見の提出状況

意見提出者	1名
意見提出件数	5件

	パブコメ意見	対応方針
パブリックコメント (美濃加茂市) H24.11.20 ~ H24.12.19	昭和58年9月28日台風10号による集中豪雨で浸水家屋約4,600戸の被害がありました。私も被害者の一人です。対策として、今後二度と災害が起きないようにとのことで、築堤と新丸山ダムとのセットで整備が進められました。河川激甚災害対策事業の築堤にあたり用地も提供しました。築堤は完成しましたが、新丸山ダムは未だに本体の着工が進んでいません。新丸山ダムが完成することにより河川水位が約3m下がります。もし完成していれば、平成22年、23年の浸水被害は、木曾川本川の逆流もないので被害はないはず。58年の大洪水は未曾有の雨の一言で終わってはいけません。今年もゲリラ豪雨が日本中で起きています。想定外という言葉は今では死語です。想定外を想定して災害を今後起きないようにするために新丸山ダムの早期完成を強く要望します。 まずは、本対策計画に、新丸山ダムのことがなぜ記述していないのかお尋ねします。	「加茂川総合内水対策計画」は、平成23年9月洪水と同程度の豪雨が発生した場合でも床上浸水を概ね解消することを目標としていますが、ハード対策のみに頼るのではなく、「計画」の規模を超える洪水が発生した場合も想定し、ソフト対策と一体となって「減災」を目指すという概念も重要であると考えます。 また、新丸山ダム建設事業の検証は、「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」がとりまとめた「中間とりまとめ」を踏まえて、国土交通大臣から中部地方整備局に対して、ダム事業の検証に係る検討を行うよう、指示されるとともに、検討の手順や手法を定めた「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施細目」が通知され、これらに基づき検討を行っています。「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施細目」に基づき、できるだけ速やかに対応方針(案)をとりまとめたと考えています。
	加茂川の浸水被害は、木曾川本川からの逆流樋門による浸水被害です。本対策計画の大半は、小手先の対策が多く効果が薄い。まずは、昭和51年に計画されたとおり、加茂川排水機場のポンプ設置の増強が第一である。ソフト対策よりハード対策が全面に出る計画にして頂きたい。	昭和47年に逆流防止樋門を設置した以降は、ゲートを閉鎖することにより木曾川本川からの逆流による浸水被害は解消されています。 「加茂川総合内水対策計画」は、平成23年9月洪水と同程度の豪雨が発生した場合でも床上浸水を概ね解消することを目標としていますが、ハード対策のみに頼るのではなく、「計画」の規模を超える洪水が発生した場合も想定し、ソフト対策と一体となって「減災」を目指すという概念も重要であると考えます。また、排水機場のポンプ増強等による治水安全度の向上に伴って、土地開発がさらに加速するような悪循環を招くことのないよう土地利用規制等のソフト対策も非常に重要な施策であると考えます。
	浸水被害のスピードは遅く、湛水被害のため川の流速も遅い。本計画のソフト対策である情報もあまり効果が少ない。それよりも浸水する家屋も予想されるので、その家屋の家具等をいかに早く2階以上や安全な場所に運搬することも大切であり、その対策(市民協議)も検討して下さい。	国交省のホームページではCCTVカメラ映像、木曾川(外水位)及び加茂川(内水位)の水位データをリアルタイムで情報配信していますが、これらの情報により河川水位の現状把握や迅速な避難等に活用できると考えています。 一方で、被害をできるだけ軽減させるためには、行政の対応のみに頼るのではなく、「自分の命は自分で守る」といった意識も重要であり、「自助」、「共助」、「公助」のバランスのとれた対応が必要と考えます。
	ソフト対策として、休耕田を遊水地として有効活用してはどうでしょうか。加茂川流域には多くの休耕田が存在しています。今の休耕田は放置されていますので雨が降っても貯水能力がありません。雨の時だけ貯まるような指導や助成制度はできないでしょうか。	降雨を各家庭や校庭等で一時的に貯留し、一気に加茂川へ流出することを抑制することで被害軽減することが有効と考えます。 また、浸水のおそれのある低平地等においては浸水を許容するなど、土地利用のあり方を整理することが重要と考えます。
	新丸山ダムの完成は時間軸としては長期であり、排水機場の増強は工事費が高額になると聞いています。また、排水機場のポンプはあくまでも人工であり、壊れるかもしれない不安がつきまといまいます。そこで、本計画の当面5年間で整備するために、光徳橋から下流に遊水地の計画を提案しますのでご意見を頂きたい。提案地域はほとんどが坂祝町区域であります。当区域の加茂川沿いの両岸約20m、延長1kmの民地は農地ですが放置され、現状は竹藪化しています。その土地を遊水地として利用するのです。用地買収、河川区域の拡大、掘削土砂の処理、事業主体等の問題があると思いますが、ポンプ増設より安くでき、計画によっては毎秒10t以上の遊水機能があると思います。	排水機場の増強分である毎秒10m3の遊水機能を確保するためには、約6haの遊水地(深さ1m)が必要です。ご提案頂きました地域について、坂祝町に確認したところ、左岸側は農業振興地域に指定されており農地としての活用もされています。 このため、用地買収、残土処分等に時間を要すると考えられることから、効果の早期発現の観点からポンプ増強の方が優位と考えます。